

## 令和2年度 第2回鳴門市総合教育会議 議事録

令和3年1月20日、16時00分に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。

同日16時58分に閉会した。

### ・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、甲斐委員、加藤委員、濱川委員、川上委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、小泉政策監、尾崎事業推進監

教育委員会事務局

大林教育次長、笠原教育総務課長、並木学校教育課長、

岡教育支援室長、板東学校教育課主幹、前田教育支援室副室長、

会議事務局

阿部秘書広報課長、山田秘書広報課主事

### ・傍聴者

1名

・会議は、市長が議事を進行した。

・議事の内容は次のとおりである。

(1) 教育大綱の見直しについて

(2) G I G Aスクール構想の推進について

阿部秘書広報課長は、16時00分に令和2年度 第2回鳴門市総合教育会議の開会を宣言した。

阿部秘書広報課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

市長は、議事(1) 教育大綱の見直しについて説明を求めた。

会議事務局は、教育大綱の見直しについて説明を行った。

市長は、教育大綱の見直しについて、教育長・各委員に意見を求めた。

濱川委員：鳴門市総合計画と鳴門市教育大綱の整合性を考え、教育大綱を改定するのは分かりやすい。また、新型コロナウイルスの影響により学校が休業となるなど学校に行けない期間が出た。こうしたことを考えると、タブレットを使用したオンライン授業など新しいことに対応していく必要があり、6つの柱とすることに関しては賛成である。

川上委員：現大綱を読み返したときに、「GIGAスクール」や「フェーズフリー」を入れたほうがよいのでは、と思っており、改定案を見たところ、しっかりと記載されていたため、足りない部分を補った改定であると思う。

現在の新型コロナウイルスもあるが、南海トラフ地震も起きるといわれているため、基礎的な学力はもちろん、生きていく応用力という部分を明記していくことで、これからの子どもたちに役立つものになると思う。

市長：南海トラフ地震は30年後という話もあるが、10年後、20年後に起こる可能性もあるため、他人事と捉えず、自分のこととして考えられる環境を作り、こうした子どもたちになってもらいたい。

甲斐委員：川上委員と同様、「GIGAスクール」と「防災」について記載してほしいと考えていた。GIGAスクールについてですが、このコロナ禍において、学校休業などに伴い、生徒同士のコミュニケーションが減少し、孤立してしまう生徒もいたと思う。こうしたときにタブレットが整備されており、朝のホームルームだけでも生徒全員がタブレットでみんなの顔が見れる環境があれば、もう少し違ったのではないかと思う。

そのため、早い段階でタブレットが生徒全員に支給されることを願っている。

市長：タブレット一人一端末が支給され、オンライン授業が開始されたときに、環境整備が整わず、使えない生徒もいるのではと思う。その点について、事務局の説明を求める。

教育委員会事務局：今年度当初にWi-Fi環境について各家庭にアンケート調査を実施し、約1割の家庭がWi-Fi環境がないと結果が出た。1割は約350人となるため、350台のWi-Fiを整備し、学校が一斉休校などにより、環境が整わない家庭がある場合には、貸し出すことを想定している。

加藤委員：各委員と同様、とても分かりやすく、非常によい改定であると思う。今回追加する6番目の柱についても、説明がしっかりと書かれている。ただ、5つ目の柱の項目にある「学校の適正規模、適正配置の推進」について確認したい。このコロナ禍において各学校が地区別に分けて開催するなどさまざまな工夫をしながら、参観日など行事を実施していると思う。こうした中、小規模校については従来通り開催できていたのではないかと思う。こうしたことから、小規模校の理念を見直す時期ではないか。

教育委員会事務局：記載当初は、中長期的に、生徒数が減っていくなかで学校再編等を考えていく必要があるという観点から記載している。しかし、文部科学省からも1学級あたりの適正人数を少人数化するという話もあり、適正規模、適正配置の考え方の変化に伴って議論されているものであると思う。こうした状況も踏まえ、国や県の動向を注視しながら、市としても合わせていく必要があると思う。

加藤委員：小規模校のよいところを子どもたちや保護者、先生方もしっかりと認識していただきたいと思う。

安田教育長：教育大綱は教育の指針となるものである。今、しなければならないこと、さらには、それを次の世代へと繋げていくという思いを改定案にしっかりと入れていただいている。これをもとに、教育委員会では施策を見直したり、別の施策を連携して進めていければと思う。

**市長は、議事（2）GIGAスクール構想の推進について説明を求めた。**

教育委員会事務局は、GIGAスクール構想の推進について説明を行った。

**市長は、GIGAスクール構想の推進について、教育長・各委員に意見を求めた。**

甲斐委員：新しいものが導入されると、子どもたちは慣れていくと思う。しかし、先生がさらに多忙になるのではと心配している。先生の研修等も非常に多いと聞いているので、研修等もタブレットを使用し、録画で見れるなど対応があれば、時間をかけずに覚えられるのではないか。動画については、長い時間ではなく、短い時間に区切ったものにする事でより見やすくなると思う。

市長：甲斐委員の発言のとおり、セッティングまでのセクションごとに動画を分けることで、4～5分で1つの動画になり、よいと思う。

川上委員：ICT 支援員は来年度から活動が始まるとあるが、すでに採用の準備などは進んでいるのか。

教育委員会事務局：来年度の当初予算については、議会の議決を経た後となるが、本市としては、できるだけ早く ICT 支援員が各校で業務を開始できるよう準備を進めていきたいと考えている。

加藤委員：少しでも早く整備をするというのが目指すべきところではあるが、開始初年度は必ずトラブルが起こると想定されることも鑑みると、ゆっくりと時間をかけて丁寧に進めていく必要があると思う。また、子どもたち、特に小学生は発達段階であると思う。先生と対面して話をすることや、友達と交流を重ねながら協調性を学び、成長していくものと思う。こうしたことから、GIGA スクール構想に重点を置きすぎてしまわないよう、子どもたちの実情をしっかりと確認し、先生方の意見を聞きながら、進めていってほしい。

濱川委員：GIGA スクール構想は、進んでいってほしいと思っている。新型コロナウイルスの影響により、整備に向けて当初よりも早く進んでいるのではと思う。整備が完了し、1年、2年と経過し、先生も慣れてくることで子どもたちにとってもよい環境となっていくのではないかと考えている。

市長：1年、2年と経過し、この GIGA スクール構想も自然な形で取り入れられるようになればよいと思う。

阿部秘書広報課長は、16時58分に閉会を宣言した。